

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈8月15日（金）放送分〉

テーマ「世界自然遺産②」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は、「世界自然遺産」シリーズの第2回目です。

シリーズ1回目では、「世界自然遺産」についての説明や日本国内で登録されている四つの世界自然遺産地域について紹介しました。今回は、いよいよ登録をめざしている奄美群島を含む琉球諸島についてお伝えします。

奄美群島は、鹿児島県本土と沖縄のほぼ中間に位置する奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、加計呂麻島、請島、与路島、与論島の総称で、総面積は1,239平方キロメートルです。かつては大陸の一部であり、切り離されたことで独自の生態系や固有種が遺^{のこ}されてきたと考えられています。

奄美大島は、北部は山の少ないなだらかな地形で、美しい海岸線があり、南部は大半を山が占めています。気候は、四季を通じて温暖で、降水量が多く、黒潮が走る豊かな海には美しいサンゴ礁が広がり、色鮮やかな熱帯魚も生息しています。

緑深い内陸部では、固有種であるルリカケスやアマミノクロウサギをはじめ、珍しい動植物が生息し、豊かな自然が身近に存在しています。

このように奄美群島は、世界的にも貴重な固有種や、そのほか絶滅のおそれのある動植物の生息地として重要な地域であることから、世界自然遺産候補地として選ばれています。

奄美・琉球地域には四つの重要な特徴があります。一つ目は、年間をとおして温かく雨が多いことで、動植物の生息・生育に適している気候といえます。二つ目は、過去に大陸とつながったり離れたりしてきたことで、大陸では絶滅してしまった絶滅危惧種^{ぜつめつ き ぐ し ゅ}が生き残っています。また、島独自の環境へ適応^{てきおう}し、固有種へと進化した動植物が存在していることです。三つ目は、世界的に見てもめずらしい亜熱帯の森林があります。同じ緯度^{い ど}では、乾燥した地域が多い中、奄美・琉球は亜熱帯の森林を形成しているため、他では見られない生物が存在しています。四つ目は、世界を生物の分布をもとに分けた生物地理区^{せいぶつ ち り}において、奄美・琉球は、旧北区と東洋区^{きゆうきたく とうやう}の境^{さかい}に位置するため、両方の生物地理区の特徴がみられます。このように、奄美群島は世界的に貴重な生態系と生物多様性をもつ島であり、価値があるため世界自然遺産候補地となっています。

そこで、この奄美群島に生息している希少動植物の一部を紹介しましょう。

まずは、みなさんよくご存じの「アマミノクロウサギ」です。奄美群島だけに生息している原始的なウサギで、沢沿いの山地や自然林などに生息しています。数は、奄美大島だけで、2,600～6,200頭、徳之島で120～290頭といわれています。

次に、ルリカケスを紹介します。皆さんは、ルリカケスが、鹿児島島の鳥、「県鳥」であることをご存知でしたか。ルリカケスは、奄美大島の固有種で、小さな群れで生活している野鳥です。ヒマラヤに生息しているインドカケスに近いとされます。森林回復に伴い、生息範囲が広がっているとの見方もあります。

植物では、ウケユリがあります。^{うけじま}請島と奄美大島のごく一部にのみ分布している固有種のユリです。^{おうべい}欧米で園芸用として改良された多くのユリの親として用いられたことでも知られています。古い時代に隔離された島の環境の中で特別に生き残ってきたものと考えられています。

もちろんこの三つ以外にも貴重な動植物が奄美群島には多数存在しています。

このように、世界的に貴重な生態系と生物多様性をもつ奄美大島が、世界自然遺産に登録されると、「観光客の増加や人口・仕事の増加、農産物・特産品のブランド化」等経済面、産業面でたくさんのメリットもありますが、一方、心配される問題として「ゴミ問題・動植物の盗掘や採取^{とうくつ さいしゅ}、人が増えることによる自然・景観への影響」等もあります。メリットを最大限に生かし、デメリットの不安をなくすためにも、わたしたち住民の事前の心構えと準備が必要になってきます。

シリーズ3回目は、世界自然遺産登録に向けた取り組みについてお伝えしていきます。

さて、小・中学生の皆さんは、夏休みも折り返しですね。奄美図書館の1階・2階閲覧室には夏休みの自由研究に関する内容の展示がしてあります。今回お伝えした世界遺産コーナーもあります。ぜひ参考にしてください。

職員一同、皆様のご来館を心からお待ちしております。以上、鹿児島県立奄美図書館でした。